

「ふるさと春日井学」研究フォーラム

Forum for Furusato Kasugai Studies

「ふるさと春日井」地域活性化・まちづくりへの応援
メッセージ

会報

NO. 19

2014. 9. 26発行

編集責任：河地 清

Kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

第19回「ふるさと春日井学」研究フォーラム

テーマ『ふるさと春日井と俳人横井也有』

～也有真筆句碑の拓本・見性寺と也有の関係～

9月7日（日）見性寺（内津町）境内及び本堂において第19回「ふるさと春日井学」研究フォーラムをテーマ『ふるさと春日井と俳人横井也有』と設定してフォーラムを行った。

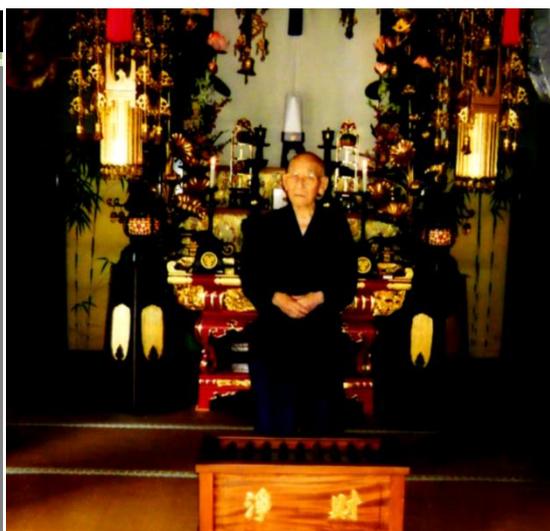
春日井市古文書研究会会長 近藤 雅英 氏が『俳人横井也有』と題して、也有の句を中心にして句と人となりを解説していただいた。境内には也有の真筆になる句碑が二基ある。川ロー彦 氏（本会会員・拓本研究家）によって実際に拓本を採取していただく実演も行っていた。さらに、見性寺住職加藤啓紘 氏により、也有と見性寺との関係について文献にはないエピソードや知られざるお話も聞くことが出来た。

参加者は、28名であった。

今回は実際に歴史の現場に立ち会いながらのフォーラムであった点で文献のみでは知り得ない臨場感のある勉強ができたと思っている。



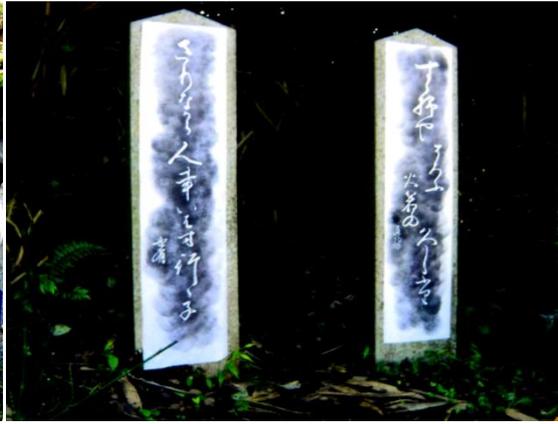
発表者：近藤 雅英 氏



見性寺住職 加藤啓紘 氏



川口 一彦 氏 (拓本の説明風景)



横井 也有 真筆句碑 (拓本採取)

第 19 回「ふるさと春日井学」研究フォーラム 講演記録

内津町の水洞山見性寺で開催した「横井也有と春日井」と題した講演を近藤雅英氏(春日井古文書研究会会長)にいただいた。同時に、境内にある也有直筆の俳句を刻字した 2 基の句碑を川口一彦氏(柏井町 7、日本景教研究会代表・牧師・書家)に拓本を採っていただくデモンストラーションも同時におこなった。近藤氏は『春日井商工会議所ニュース』の「春日井の人物 35・36」欄に「長谷川三止と横井也有(1)(2)」を執筆されている。この二文に「横井也有と春日井」の関係は尽きるといえるが、さらに詳しく紹介していただいた。

1. 「すみれ草」のこと

内々神社本殿東の坂小道の脇に横井也有の「内津草」に詠まれた句や歌が自然石に彫られ並ぶ。「麓からしらむ夜明けや蕎麦畑」「夜と昼の目は色かへて鳥居松」「山がらの出て又籠にもどりけり」「尻ひやし地蔵はこゝにいつまでもしりやけ猿のこゝちでは」「駕たてるところどころや蓼の花」「名もにたり葛の細道うつつ山」坂を上りつめた平地に「すみれ塚」がある。也有書の芭蕉翁の俳句である。「山路来て何やらゆかしすみれ草」は「野ざらし紀行」(1685 年)の句で、内津峠の風景が、京都から大津へ向かう逢坂山とよく似ていると也有が言ったので、内津に住む弟子の長谷川三止が、句の揮毫を頼み、句碑にして内津峠に建てた。当初は内々神社から 200m ほど北東の下街道沿北側にあり、「芭蕉塚」といった。

すみれ塚の周辺に 7 つの句碑が建てられている。「鹿啼や山にうつふく人心」(也有)「人の親の焼野のきざすうちにけり」(暁台)「曇日も照日もぬれて若葉哉」(明之坊)「芝橋や下行風に冬の音」(桂坊)「茶は同じ香を手まぐらの右左」(也有)と三人合同碑(也有・暁台・艸人)「常住往生 平生養生」として「けふしらぬ身に朝顔の種拾ひけり」艸人(三止)「堇塚捻香」として「其魂もまねかばこゝにすみれ塚」也有 「今はそれもゆかしき影や堇塚」暁台翁 「堇塚幾夜の霜に鳥の跡」艸人(=草人、三止の晩年の俳号)

注) 捻香=焼香の意

2. 「内津草」のこと

芭蕉翁の「山路来て…」の句碑(也有書、1769 年建立)の披露をかねて、招かれた也有が、名古屋の前津から内津へ来たときの俳文集『鶉衣』に収録されているのが「内津草」では紀行文の形です。紀行文「内津草」(俳文集『鶉衣』に収録)也有は俳諧以上に、俳文で天下逸品とされています。

安永 2 年(1773)8 月 18 日(丑三つ=夜中の午前 2 時すぎ)に名古屋の前津(の庵)を出発(内津には昼頃に着く)、10 日間の滞在であった。道中、当時の春日井の風景などを知ることができる貴重な文献となっている。内津での連句 5 巻があり、「夢もみじ鹿きくまでは臂まくら」(見性寺の境内に句碑あり)「漱(すす)ぐ石もあたりにきりぎりす」が見られる。注)「漱石枕流(いしにくちそそぎ ながれにまくらす)は本来「石に枕し流れにくちすすがん」というべきで、問われてひどいこじつけの弁明をしたという中国の故事について紹介された。

3. 絵馬堂の奉納額「俳諧一折」のこと

也有が内津を訪れた安永 2 年(1773)8 月の内津での句会の句を中心に、也有の 3 回忌(天明 5 年(1785))を偲んで、三止が内々神社に奉納した。也有の句が 8 句(うち 7 句が半掃庵名)見られる。この「俳諧一折」の中に、戦後の「横井也有全集」(名古屋叢書)の中にも未収録の「鼯鼠(もぐらもち)おとに遠音や秋のくれ」の句を近藤氏が見つけた。「えんそ」とも読むが、それでは 5 文字にはならない。新潟県田上町の方言だとか。注)2009.7.14 付け中日新聞に記事あり資料に添えられた。なお、この「俳諧一折」の額頭は「杉ふかしかたじけなさに袖の露」。

4. 見性寺と綱國上人のこと

綱國玄堤和尚は安永 6 年(1777)に万松寺から見性寺の住職になり、中興開山になったが、也有との交遊は宝暦 8 年(1758)から続いたことが、「蘿隠編」に記録されている。見性寺の住職になってからの最初は安永 7 年(1778)のであった。注) 見性寺の石段の下に「也有翁曾遊(そうゆう)の寺」の石碑が建つ。かつて也有が遊びに来た寺であることを知らせている。



也有肖像画 (見性寺所蔵)

5. お茶「手枕」のこと

三止が也有に自家用の茶(煎茶)の銘を頼み、也有は「茶の下をあふぐかた手は枕かな」と句を読み、「手枕」と付けたと「定茶銘文」にある。ところが、下街道を隔てた前の酔月堂も商売用の茶が同銘だったことがわかり、別の名を改めて希望したところ、即座に「茶は同じ香を手まくらの右左」と俳句で答えた。酔月堂の主人もまた「試石」を俳号とする俳人であった。

6.「也有的略歴」

横井也有的は、元禄 15 年(1702)、現在の愛西市藤ヶ瀬(旧八開村給父(きゅうぶ))の生まれ。尾張藩 1,500 石の重臣で、大番頭や寺社奉行をつとめた。本名は時般(ときつら)。53 歳で名古屋前津に隠棲した。武芸にすぐれ、特に俳諧、平家琵琶、謡曲、書画、詩歌などにもすぐれた多才の教養人。天明 3 年(1783)の没。82 歳。天明 5 年に江戸の版元蔦屋から「鶉衣」が出版され、一躍有名になった。俳句の世界では、尾張三老(横井也有的・加藤暁台・井上四朗)の筆頭とうたわれた。別号に知雨亭、蘿隠、半掃庵などがある。

注) 『鶉衣』は大田南畝(なんぼ、1749.4-1823.5)によって刊行された。南畝は狂歌三大

のひとり。天明期を代表する文人。『鶉衣』の序文を書いている。也有的の死後、このまま埋もれては惜 自ら

『井也有翁』（小笠原楚牛編著）の伝記小冊子が発行され、平成6年3月『横井也有』（八開村編集・発行）のカラー刷りパンフレットが発行されている。地域では也有の顕彰に努力されている様子が垣間見られた。横井家は北条氏の系譜を引く名家であり、6代目也有は、

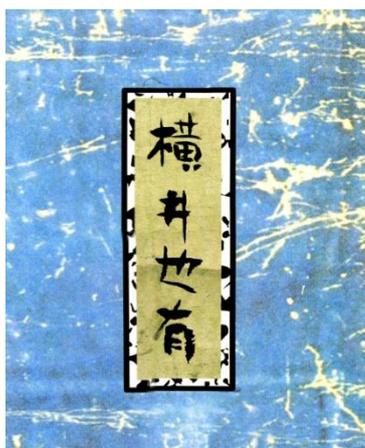


西音寺山門



横井家累代之墓

徳川御三家尾張藩の御用人（藩主の秘書）であり、尾張俳諧三老（暁台、士朗、也有）と称された俳人でもあった。地域の誇る文化人であり、地域の文化振興のためにもしっかりとした形で継承されていかねばならない歴史資産であると強く感じた。西音寺は、町内の人たちが管理し見守っておられるようであるが、「ふるさと創生」政策の眼がこういったところに向いて行くことを祈りたいし、地域の人たちの「ふるさと意識」と「地域力」に期待したい。「ふるさと春日井」にも深くゆかりをもつ也有との縁を愛西市・春日井市・名古屋市の地域を越えた連携の中で総合的に也有顕彰が進んでゆくことを願いたいものです。見性寺住職加藤氏は、「見性寺において句会、茶会を開いて也有の顕彰をして行きたいと思っている」と語っておられたことが印象に残っている。



愛西市発行「也有」パンフレット
(B6版6頁)



昭和27年4月発行「横井也有翁」伝記
(B6版23頁)

見性寺は横井也有曾遊の地として知る人ぞ知る地であり、急峻な山肌へへばり付くよう

にして建てられている境内から見渡す風景は、漢詩に詠われている「深山溪谷鹿、猿の鳴き声が容易に想像できる」地であることが解る。内津神社を經由して内津峠へ抜ける下街道の名所であり、「ふるさと春日井」の重要な観光資源としてもっと市民に知ってもらいたい場所である。こうした「也有」を通じて、地域に残る歴史遺産、伝承、伝説、記憶を伝承し記録して行く営みが絶えることなく続けられて行くことが重要である。そのこと自体が「ふるさと意識」の醸成に繋がり、アイデンティティーの創出に繋がって行くのである。

(文責：河地 清)

次回 FORUM のお知らせ

第 21 回テーマ『歴史資料としての石碑』

日 時：平成 26 年 11 月 2 日 (日) 13:30～15:30

場 所：市民活動支援センター・ささえ愛センター 2 階第 1 集会室

フォーラム内容：

①『石碑からわかるふるさとの歴史—林 金兵衛君碑を中心にして—』

発表者：河地 清 氏 (「ふるさと春日井学」研究フォーラム会長)

※資料代 500 円 (各回非会員のみ徴収)

第 22 回テーマ『書のまち春日井の書写教育』

日 時：平成 26 年 12 月 7 日 (日) 13:30～15:30

場 所：市民活動支援センター・ささえ愛センター 2 階第 1 集会室

フォーラム内容：

①『県下児童・生徒席上揮毫大会の歴史—現状と課題—』

発表者：宮田 健一 氏 (春日井市立小野小学校校長)

※資料代 500 円 (各回非会員のみ徴収)

(事務局)

「ふるさと春日井学」研究フォーラム 会長 河地 清

TEL/FAX 0568-82-5973 メール：kawachi-k@mb.ccnw.ne.jp

かすがい市民活動情報サイト：<http://kasugai.genki365.net/>

ふるさと春日井学 検索 